



東京都立立川国際中等教育学校 学校経営計画

1 目指す学校

(1) 教育目標

国際社会に貢献できるリーダーとなるために必要な学業を修め、人格を陶冶する。

(2) 教育理念

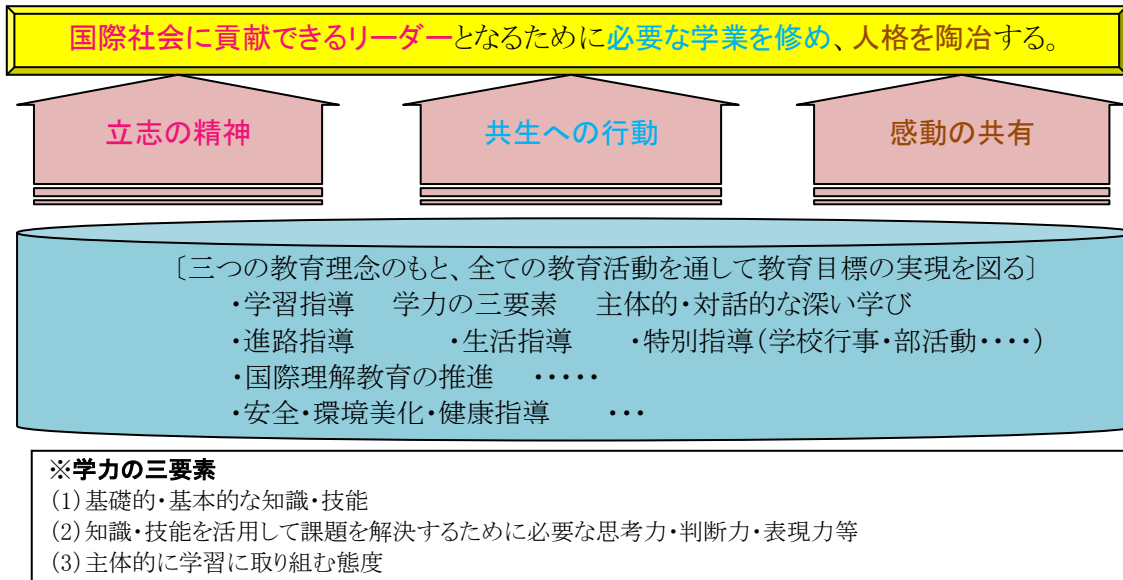
立志の精神 国際社会に生きていく人としての自覚をもち、自ら志を立て、未来を切り開いていく力を育成する。

共生への行動 国際社会にあつて、自己の考えを明確にもち、表現できる能力を養うとともに異なる文化を理解し、尊重する態度を育成する。

感動の共有 学校教育のあらゆる場において、生徒の主体性を重んじ、達成感、連帯感を育成する。

(3) 育てたい生徒像

- ① 幅広く学び、より豊かで深い教養を身に付けた生徒
- ② 日本語への理解を深め、豊かな表現力をもつ生徒
- ③ 将来、国際社会で活躍できる素養のある生徒
- ④ 国際社会において必要な、英語を中心としたコミュニケーション能力をもつ生徒



2 中期的目標と方策

立川国際のスローガン 世界に一番近い学校

教育理念「**立志の精神**」「**共生への行動**」「**感動の共有**」の三本の柱をもとに、教育目標の達成に向けた具体的な教育活動のスローガン「**世界に一番近い学校 ～人生を豊かにするチャンスがここにある～**」を設定する。

(1) 学校経営・組織

【目標】「チーム立国」として教育目標の実現のために組織的な教育活動を展開する。

【方策】

- ① 分掌等の主任を中心として、全教職員が課題を共有し、課題解決に向けた協働体制を強化した組織的な運営
- ② 各分掌における仕事内容の整備を図り、生活と仕事との両立・調和のためのライフ・ワーク・バランスを推進するために、より効率的な校務運営の構築
- ③ 主幹会議、企画調整会議、教科主任会議、PDCA会議の機能の充実
- ④ 生徒による授業評価、学校運営連絡協議会の評価等を活かした学校運営
- ⑤ グランドデザインに基づく教育活動の展開

- ⑥若手教職員等のOJTへの組織的支援体制の構築
- ⑦経営参画ガイドラインに基づいた経営企画室職員の経営参画と教員の連携による教育目標の達成
- ⑧服務規律の徹底を図る。体罰は指導の名のもとに、生徒の人格を否定するものであり、絶対に許される行為ではなく、全ての教育活動から体罰を根絶する取組を推進

(2) 学習指導

【目標】学力の三要素の育成を意識し、主体的・対話的な深い学びに基づいた学習指導を展開する。生徒の課題発見、解決能力や言語的表現能力などの多様な能力の育成を図り、教養と知性溢れる生徒の育成を目指す。

【方策】

- ①新学習指導要領に基づいた、中高一貫教育校としての6年間の体系的な教育課程を編成及び指導計画の作成
- ②主体的・対話的な深い学びに基づいた学習指導を展開し、生徒に思考力・判断力・表現力等の能力や主体的に学習に取り組む態度の育成
- ③学習環境の整備と自宅学習習慣の確立を図る指導の実践
- ④難関大学入試に対応できる、教員の教科指導力の向上と授業改善

(3) 進路指導

【目標】生徒の高い志を育て、生徒の高い進路希望を実現するための指導体制を構築する。

【方策】

- ①進路指導部を中心とした6年間の体系的な進路指導計画に基づいた指導
- ②データとその分析に基づく進路指導及び教科指導
- ③組織的な講習・補習の実施
- ④保護者との連携に基づいた指導

(4) 生活指導・特別活動

【目標】規範意識と道徳心を育むとともに、自主自律の精神と自己管理能力を養う。

【方策】

- ①基本的な生活習慣を確立させる指導の徹底
- ②帰属意識を高め、良好な人間関係を築き、自ら心身を鍛える態度の育成
- ③6学年に及ぶ異年齢集団での活動の充実
- ④学校いじめ対策委員会を中心に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的な取組
- ⑤防災教育等、地域と連携した学校行事の実施

(5) 国際理解教育

【目標】国際の二文字を冠した学校として、生徒の国際理解を高める観点で、内容の充実を図り、国際理解教育を推進する。

【方策】

- ①国際社会に貢献できるリーダーとなるために必要な教育を効果的、効率的に推進
- ②資格取得指導の充実
- ③関係機関、大学等との連携の推進

(6) 安全・環境美化・健康指導

【目標】安全安心な学校づくりをする。生徒が生涯にわたり心身ともに健康的な生活を営めるよう、生徒の健康保持増進や体力づくりの推進に努める。

【方策】

- ①災害安全・生活安全教育を推進するとともに、生命尊重の視点に立った生活指導、安全指導を徹底し、生徒の健全育成を推進

- ②組織的な教育相談体制の確立及び個々の教職員のカウンセリングスキルの向上を通し、生徒の悩みに基づく事故の未然防止
- ③基本的な生活習慣の確立と健康保持の自覚の育成
- ④校舎・施設を大切に使う姿勢を育み、公共の場をきれいに使う環境美化活動の促進

(7) 募集・広報・地域活動

【目標】積極的に保護者・地域・社会に情報発信するとともに、募集対策に組織的に取り組む。

【方策】

- ①効果的な情報発信についての検証と改善
- ②学校説明会などの充実と学習塾等関係機関との連携
- ③教育活動の情報を広く対外的に発信するHPの活用
- ④地教委や地域の協力も得て、近隣小・中学校・地域と連携した教育活動の推進

(8) 施設設備管理・経営企画室運営

【目標】学校経営計画に基づく教育活動が円滑に遂行できるよう、経営企画室機能を充実させる。

【方策】

- ①業務管理表等を活用して、業務の進捗状況の適切な進行管理
- ②生徒の安全確保のための施設設備の保守点検及び改善の随時実施
- ③自律経営推進予算の執行を経営企画室と各分掌の連携のもとで適切に管理

(9) 都立小中高一貫教育校の設置

【目標】語学力や豊かな国際感覚、日本人としての自覚と誇りを備え、国際的に活躍できる人材を育成する。附属小学校を設置し、早い段階から帰国児童・生徒や外国人児童・生徒とともに学ぶなど、国際色豊かな学習環境を整備する。

【方策】

- (1) 令和4年度開校に向け、「都立小中高一貫教育校教育内容等検討委員会報告書」の年度別計画に基づいた開設準備

3 今年度の取り組み目標と方策 重点目標と数値目標

◎「Team 立国」として教育目標の実現のために組織的な教育活動を展開する。

指定校

- 1 東京グローバル10
- 2 海外学校間交流推進校
- 3 関係機関と連携した防災教育を実施する学校

(1) 学校経営・組織

【目標】Team 立国の下、全教職員が連携・協力して、学校として統一感ある教育活動を展開するとともに、自負・自覚と使命感をもって積極的に生徒の育成に臨む組織とする。

【重点目標】

- 生徒の高い進路希望が実現できる組織
- 生徒の主体性を重んじ、達成感、連帯感の育成ができる組織
- 国際社会に貢献できるリーダーとなるために必要な学業を修めることができる組織
- 教育目標の実現に向けた、6年間の教育活動の実施計画を示したグランドデザインの完成
- 学校評価 生徒の満足度85% 保護者の満足度85%

【方策】

- ①主幹会議、企画調整会議、教科主任会議、PDCA会議の機能の充実
- ②若手教職員へのOJTによる組織的支援体制の構築
- ③生徒による授業評価、教員相互授業観察、研究授業や進学指導上の事例研究等を中心にした校内研

修等による授業改善、生徒への指導力の向上等の教員の資質向上

- ④立川国際中等教育学校いじめ防止基本方針に則り、学校いじめ対策委員会を中心に、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取組み、生徒が安心して学校生活を送れる学校
- ⑤体力の向上を図る取組及び部活動の推進を図る校内体制を整備
- ⑥オリンピック・パラリンピック教育にかかる取組を、大会後のレガシーも見据え、様々な教育実践に関連付け、学校全体で組織的・計画的に展開
- ⑦各分掌における仕事内容の整備を図り、生活と仕事の両立・調和のためのライフ・ワーク・バランスを推進
- ⑧服務規律の徹底により服務事故ゼロ

(2) 学習指導

【目標】生徒の課題発見、解決能力や言語的表現能力などの多様な能力の育成を図り、教養と知性溢れる生徒の育成を目指す。教育活動全体の質を向上させる。

【重点目標】

- 授業研究・校内研修の実施 学期1回
- 自宅学習時間の確保 1、2年生 2時間 3年生 3時間 4、5年生 3時間+eポートフォリオ
- 教員相互の授業観察 学期に1回以上
- 全学年・全教科・科目の年間指導計画の改善及び生徒への配布
- 指名制による授業研究 延べ5人
- 大学入試分析会・教科指導講座等 延べ60人

【方策】

- ①新学習指導要領、学力スタンダード(指導計画)に基づいた、中高一貫教育校としての6年間の体系的な教育課程を編成及び指導計画の作成
- ②主体的・対話的な深い学びに基づいた学習指導を展開し、生徒に思考力・判断力・表現力等の能力や主体的に学習に取り組む態度の育成
- ③定期考査分析・模試の結果の分析会を柱とした学習指導・教科指導の充実
- ④教員相互の授業観察(学期に1回)
- ⑤自主学習指導の充実
- ⑥三者面談、二者面談の充実
- ⑦国内先進校視察の実施
- ⑧朝読書・朝学習の実施
- ⑨習熟度別編成授業・少人数授業、ICTやワークシートの活用等による基礎学力の定着

(3) 進路指導

【目標】進路指導部を中心とした学校運営により、生徒の進路実現・自己実現に向け、各分掌・学年等が有機的に機能する組織体制を構築する。

【重点目標】

- 長期休業日中の講習
 - 夏期講習 ・全学年で実施 ・生徒提示5月中 ・130講座の開設 ・受講者延べ2000人
 - 冬期講習 ・全学年で実施 ・40講座の開設 ・受講者延べ500人
 - 春期講習 ・全学年で実施 ・40講座の開設 ・受講者延べ200人
- 自習室の年間利用者延べ 7000人
- 進学実績 ・センター試験5教科7科目受験者90人
- 現役 ・難関国立大学(東大、京大、一橋大、東工大、国公立医)合格者8人
・国公立大学合格者50人、難関私立大(早大、慶大、上智大)合格者60人

【方策】

- ①今春の大学受験結果の精緻な分析とそれに基づく指導体制・内容の見直し
- ②分析会・ケース会議等に基づいた個別指導と教科指導の改善・充実
- ③計画的な学期中の放課後講習・長期休業期間中の講習の実施

- ④各教科のセンター試験目標点の設定と結果分析に基づく教科指導の改善
- ⑤新しい高大接続に向けた対応(高大連携の拡大)
- ⑥海外大学進学指導の充実

(4)生活指導

【目標】基本的な生活習慣・規範意識と道徳心・帰属意識の育成

【重点目標】

- 行事の満足度 85% 以上
- 縦割り活動を取り入れた行事 年間5件
- 規範意識、道徳心・帰属意識を育成する取組 3件

【方策】

- ①生徒が学校行事等に自主的・意欲的に取組むことによる帰属意識の育成
- ②学校行事や集会の折に校歌を斉唱し、立国生であることへの誇りと帰属意識の育成
- ③部活動への積極的に加入を促し、体力の向上、良好な人間関係づくりを推進
- ④都立学校生活指導指針の趣旨を踏まえ、生徒の発達段階・個々の状況に応じた肌理の細かい指導の推進
- ⑤登下校マナー 授業マナー 学校施設利用マナーの向上
- ⑥部活顧問と学年、生活指導部、進路指導部の連携
- ⑦挨拶指導(校内外)、身だしなみ指導、時間の遵守指導、登下校指導の実施
- ⑧異年齢集団での活動など、規範意識、道徳心・帰属意識を育成する取組の充実
- ⑨地域と連携した行事の実施
- ⑩「東京都立立川国際中等教育学校SNS学校ルール」に基づき、家庭と連携し、スマートフォンや携帯電話等を適切に利用できるよう育成
- ⑪挨拶の励行をすべての教育活動を通して推進

(5)国際理解教育

【目標】生徒の国際理解を高める観点で、内容の充実を図り、国際理解教育を推進する。

【重点目標】

- 海外学校間交流推進校として姉妹校交流校の具体的な内容の構築
- 語学力検定試験受験に向けた指導の実施
- 大学と連携した取組 7取組
- 英検各学年の目標級の取得率(全体で) 55%

【方策】

- ①東京グローバル10の指定校として、先進的な国際理解教育の推進
- ②姉妹校交流の推進
- ③語学力検定試験指導の実施
- ④米国エンパワーメントプログラムの実施
- ⑤語学力検定試験・関連行事への組織的な取組の推進
- ⑥外務省、駐日大使館、国連等関係機関、東京学芸大学等との連携の推進

(6)安全・環境美化・健康指導

【目標】安全安心な学校生活生徒が生涯にわたり心身ともに健康的な生活を営めるよう、生徒の健康保持増進や体力づくりの推進に努める。

【方策】

- ①避難訓練、宿泊防災訓練等において、防災活動支援隊とともに、関係機関と連携して災害発生時における、自助・共助・公助の適切な行動が取れる指導
- ②薬物乱用防止、喫煙防止・エイズ・性教育・食に関するもの等様々な安全教室を実施し、健康的な生活習慣の確立、健全育成の推進

- ③校舎・施設を大切に使う姿勢を育み、公共の場をきれいに使う環境美化活動の促進
- ④スクールカウンセラーによる1年生全員との面接を行い、生徒・保護者がスクールカウンセラーと相談できる体制を整え、メンタル面での健康管理・健康相談の充実
- ⑤生命尊重の視点に立った生活指導、安全指導を徹底し、生徒の健全育成を推進
- ⑥カウンセリング委員会を中心として、スクールカウンセラーや外部講師の活用を図り、教職員のカウンセリングスキルを向上させるとともに組織的な教育相談体制を確立し、生徒の悩みの解消、生命に関わる重大な事故・いじめ・不登校等の未然防止
- ⑦特別支援教育に対する研修会等を開催し、生徒理解を深めると同時に生徒の実態に応じた適切な対応

(7)募集・広報・地域活動

【目標】積極的に地域・社会に情報発信するとともに、募集対策に組織的に取り組む。

【重点目標】

- 本校での学校説明会 参加者数 3300人
- ホームページ アクセス数 20000回 更新 100回以上
- 地域等に、広報誌「Tachikoku Times」の発行 10回
- 応募倍率 一般枠 5.0倍

【方策】

- ①合同説明会、学校説明会、塾説明会や塾訪問等を充実させるとともに、HPの更新と内容の充実に努め、本校の特色等を発信
- ②近隣幼・小・中、都立学校との交流の推進(生徒交流、教員研修、相互連携)
- ③地域社会である立川市、市教育委員会、曙町、消防署、青年会議所等関連機関との連携の推進
- ④総務部を中心に学校内外の募集活動に関する計画・立案および教職員の研修の企画・実施等を組織的に推進
- ⑤授業公開・体験入学を充実させ、本校への理解を促進
- ⑥学校施設開放事業の実施等による本校の持つ教育機能と施設の地域・社会への提供による都民の学習・スポーツ活動の振興に貢献

(8)「施設設備管理・経営企画室運営」

【目標】学校経営計画に基づく教育活動が円滑に遂行できるよう、経営企画室機能を充実させる。

【重点目標】

- 第3四半期の管理運営費と自律経営推進予算の執行率 85%以上
- センター執行率 55%以上 ○令和2年度予算編成 2月 完了
- 施設設備の課題改善または実施計画 100%

【方策】

- ①学校経営計画に基づく教育活動を円滑に遂行できるよう経営企画室機能の充実
- ②担当者による経営企画室長への業務進捗状況の報告により、進行管理を適切に進める。
- ③校内の施設の安全管理及び修繕の積極的な推進

(9)都立小中高一貫教育校の設置

【目標】次代を担う児童・生徒一人一人の資質や能力を最大限に伸ばさせるとともに、豊かな感覚を養い、世界で活躍し貢献できる人間を育成する。

【方策】

- ①小学校校舎は、曙グラウンドに設置のため、基本設計に基づき住民説明会を実施
- ②令和2年度7月(予定)からのグラウンド管理棟、集会室等の解体に向けた準備
- ③小学校から中等教育学校までの12年間を一体として捉え、児童・生徒の発達等に応じて適切な学習内容の配置及び指導を実践する柔軟な教育課程の編成